

◎第10回理事会(42.3.24)出席者:篠原会長,酒井,最上各副会長,羽田専務理事,青木,粟田,内林,神田,久保,米谷,堺,佐藤,多谷,成岡,広瀬,藤田,耳野,村上,横戸,吉田,渡辺の各理事,橋監事。議事録署名理事の決定:篠原会長,羽田専務理事,藤田理事。A.報告事項:つぎの各項につき羽田専務理事より報告がありました;1)会計報告。2)刊行物頒布報告。3)各種委員会その他報告。4)役員候補者選考委員会報告。5)その他。B.協議事項:1)昭和42年度事業計画案について。2)昭和42年度予算案について。3)日本工学会次期会長候補者推せん依頼について。4)第2回評議員会開催について。5)委員委嘱について

- ① 論文賞選考委員会  
委員 室田 明 大阪大学
- ② 会誌編集委員会  
委員 片瀬 貴文 日本道路公団  
菊川 哲士 運輸省民営鉄道部
- ③ 高校土木教育研究委員会 白書編集小委員会  
委員 塚本 正文 八女工業高校  
小林 利治 徳島工業高校  
川村 正明 広島工業高校  
黒田 輝男 竜野実業高校  
橋本 経吉 一宮工業高校  
鷲森 喜重 京葉工業高校  
渡利 友雄 長野工業高校  
古川 文雄 平工業高校
- ④ 原子力土木技術委員会  
委員 久保慶三郎 東京大学 生産技術研究所
- ⑤ 異形鉄筋設計例改訂小委員会  
委員 清野 茂次 オリエンタル コンサルタンツ(株)  
武田 弘 国鉄  
割沢 喜雄 国鉄  
手塚民之祐 日本鉄道建設公団
- ⑥ 原子炉用プレストレスト コンクリート容器に関する研究小委員会構成  
委員長 安藤 良雄 東京大学  
委員 安藤 良雄 東京大学  
岡田 清 京都大学  
後藤 幸正 東北大学  
小林 正几 東京大学  
松本 嘉司 東京大学  
村田 二郎 東京都立大学  
西沢 紀昭 中央大学  
島田 静雄 名古屋大学  
吉田 弥智 名古屋工業大学  
野口 功 日本鉄道建設公団  
山崎 寛司 日本セメント研究所  
関 慎吾 電力技術研究所  
永倉 正 \*  
青柳 征夫 \*  
佐藤 光春 電源開発(株)  
岡添 保 北海道電力(株)  
南雲 明 東北電力(株)  
宮崎 甚夫 北陸電力(株)  
岸 清 東京電力(株)

- 委員 富樫 利男 中部電力(株)  
畑中 俊吉 関西電力(株)  
恵比寿 智 中国電力(株)  
岩部 正司 四国電力(株)  
中沢 直之 九州電力(株)  
大西 外明 原子力発電(株)  
猪股 俊司 日本構造橋梁研究所  
堺 博信 極東鋼弦 コンクリート振興(株)  
甲斐 幹 八幡製鉄(株)  
百島 祐信 鹿島建設(株)  
伊東 茂富 建設省土木研究所  
松本 繁樹 通産省公益事業局

◎各種委員会

(1) 会誌編集委員会書評小委員会(42.1.25)出席者:高橋小委員長,ほか5名。議事:1)受付書籍の審査。2)会誌52巻3号登載書籍決定。3)ブックガイド欄検討。4)その他。

(2) 岩盤力学委員会第6回運営委員会(42.2.20)出席者:岡本委員長,色部幹事長,ほか3名。議事:1)第2回岩の力学国内シンポジウム開催について。2)国際岩盤力学会議について。3)今後の運営について。

(3) 軟弱地盤耐震設計研究委員会第4回幹事会(42.2.21)出席者:久保幹事長,ほか12名。議事:1)昭和41年度報告書(案)について。2)昭和42年度研究計画について。

(4) 本州四国第14回耐震設計小委員会(42.2.21)出席者:関係者19名。議事:省略。

(5) 本州四国上部構造に関する専門部会幹事会(42.2.21)出席者:関係者10名。議事:省略。

(6) 本州四国第29回耐風設計小委員会(42.2.22)出席者:関係者21名。議事:省略。

(7) 岩盤力学委員会第2分科会(第6回)(42.2.22)出席者:関係者9名。議事:1)運営委員会報告。2)ずい道の適正覆工時期に関する研究報告書について。

(8) トンネル用鋼アーチ支保工の強度に関する研究委員会幹事会(42.2.22)出席者:関係者7名。議事:1)前回議事録について。2)昭和41年度報告書(案)について。3)今後の開催予定。

(9) 会誌編集委員会(42.2.24)出席者:増岡委員長,ほか19名。議事:1)委員交代の件。2)会誌特集計画の件。3)次回講座の件。4)懸賞論文の件。5)依頼原稿の件。6)その他。

(10) 土木図書館運営委員会(42.2.24)出席者:米元委員長,ほか7名。議事:1)図書館利用状況。2)資料収集状況について。3)蔵書目録の発行につい

て。4)複写方法について。5)その他。

(11) トンネル工学委員会 運営委員会(42.2.24)出席者:加納委員長,ほか9名。議事:1)委員会構成の内定。2)第2回委員会の議事および日程。

(12) 第4回田中賞選考委員会(42.2.27)出席者:福田委員長,平井副委員長,ほか9名。議事:1)経過報告。2)両賞選考方針の決定;①作品賞について,②論文賞について。3)作品賞候補の予選。4)論文賞候補の説明。5)賞の形式の確定。6)今後の運営方針。7)次回委員会について。8)橋のレポートの編集について。

(13) 本州四国第14回基礎に関する専門部会(42.2.28)出席者:関係者44名。議事:省略。

(14) PC工法小委員会 レオンハルト & レオバ工法(42.2.28)出席者:国分委員長,河野主査,ほか28名。議事:パウル レオンハルト工法設計施工指針(案)第1次案の逐条審議。

(15) 本州四国基礎に関する専門部会幹事打合せ(42.2.28)出席者:関係者7名。議事:省略。

(16) 本州四国基礎に関する専門部会設計調査幹事会(42.3.1)出席者:関係者22名。議事:省略。

(17) 本州四国第16回上部構造に関する専門部会(42.3.1)出席者:49名。議事:省略。

(18) 構造用軽量骨材に関する研究小委員会(42.3.1)出席者:国分委員長,ほか11名。議事:人工軽量骨材に関する各種試験結果の報告。

(19) 文献調査委員会(42.3.1)出席者:松本委員長,ほか12名。議事:1)会誌52巻5号登載抄録の決定。2)解説記事について。3)その他。

(20) 会誌編集委員会書評小委員会(42.3.1)出席者:高橋小委員長,ほか6名。議事:1)受納図書評価。2)会誌52巻4号書評決定。3)部門別書評選定の件。4)その他。

(21) コンクリート委員会主査幹事会(42.3.2)出席者:国分委員長,ほか11名。議事:コンクリート標準示方書の改訂にともなう講習会について。

(22) 異形鉄筋設計例改訂小委員会(42.3.2)出席者:国分委員長,ほか8名。議事:1)新委員の追加について。2)異形鉄筋設計例作業担当割り当てについて。

(23) 第2回吉田賞選考委員会(42.3.3)出席者:岡部委員長,国分副委員長,ほか10名。議事:1)委員長挨拶。2)

経過報告。3) 予選について; ①担当論文の説明, 検討, ②予選の方法について, ③決選に付すべき候補論文の決定, ④決選の方法について。4) 吉田研究奨励金被授与者の選定。5) 第3回委員会について。

(24) 第1回吉田研究奨励金選考小委員会(42.3.3) 出席者: 国分小委員長, ほか6名。議事: 41年度応募11件に関し審議を行なった。

(25) 本州四国上部構造に関する専門部会幹事会(42.3.6) 出席者: 関係者9名。議事: 省略。

(26) フライアッシュ小委員会幹事会(42.3.6~7) 出席者: 関係者3名。議事: 2年試験データ整理。

(27) 本州四国第15回基礎に関する専門部会(42.3.7) 出席者: 関係者46名。議事: 省略。

(28) 本州四国耐震設計小委員会第46回幹事会(42.3.7) 出席者: 関係者12名。議事: 省略。

(29) 本州四国第17回上部構造に関する専門部会(42.3.8) 出席者: 関係者50名。議事: 省略。

(30) トンネル工学委員会打合せ会(42.3.8) 出席者: 加納委員長, ほか6名。議事: 委員会構成について。

(31) 第10回原子力土木技術委員会(42.3.9) 出席者: 左合委員長, ほか13名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 第4回理工学における同位元素研究発表会について。3) 報告“冷却水放出による水温の問題”中部電力 富樫委員。4) 原子炉施設の耐震設計と試験方法について。5) 海洋汚染の問題について。

(32) 八郎潟干拓船越水道計画施工研究委員会(42.3.9) 出席者: 本間委員長, ほか13名。議事: 1) 委員長挨拶。2) 干拓事務所長挨拶。3) 前回議事録について。4) 議題; ①導流堤の構造について, ②海岸侵食の防止について, ③最終報告書について。5) その他。

(33) 第2回表彰委員会主査幹事会(42.3.9) 出席者: 岡本功績賞主査, 渡辺技術賞主査, ほか2名。議事: 1) 功績, 技術両賞予選投票の開票整理。2) 予選通過候補の内容。3) 表彰委員会内規の検討。4) 第2回委員会議事次第について。

(34) 会誌編集小委員会(42.3.10) 出席者: 増岡委員長, ほか36名。議事: 1) 会誌52巻5号編集の件。2) 5月号特集細目次決定の件。3) 次回講座の件。

(35) 原子炉用PSコンクリート容器に関する研究小委員会(42.2.10) 出席者: 国分委員長, 関, 猪股の両主査, ほか

24名。議事: 1) 委員会構成について(各委員紹介)。2) 各国のPC・PVの現況について(猪股委員)。3) 原子炉PSコンクリート容器および原子力熱利用の実情について(安藤委員講演)。

(36) 第2回軟弱地盤耐震設計研究委員会(42.3.13) 出席者: 岡本委員長, ほか20名。議事: 1) 委員長挨拶。2) 第2回委員会議事録について。3) 経過報告。4) 昭和41年度報告書(案)について。5) 昭和42年度研究計画について。

(37) 本州四国基礎に関する専門部会幹事打合せ(42.3.13) 出席者: 関係者8名。議事: 省略。

(38) 土木年鑑編集委員会(42.3.13) 出席者: 八十島委員長, 片山副委員長, ほか13名。議事: 1) 委員会改組の件。2) 1968年版, 編集方針確認の件。3) 1968年版, 目次の件。4) 作業日程決定の件。5) その他。

(39) 岩盤力学委員会第3分科会(第5回)(42.3.14) 出席者: 山本主査, ほか8名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 岩の力学国内シンポジウムについて。3) 運営委員会報告。4) 42年度運営方針について。5) 講演「現場せん断試験に対する二, 三の実験的検討」(川本委員)。

(40) 第2回表彰委員会(42.3.14) 出席者: 篠原委員長, 岡本功績賞主査, 渡辺技術賞主査, ほか11名。議事: 1) 経過報告。2) 功績・技術両賞の決選に付する候補の決定。3) 決選の方法について。4) 表彰委員会内規の改正。5) 次回委員会について。

(41) 本州四国基礎に関する専門部会幹事打合せ(42.3.15) 出席者: 関係者12名。議事: 省略。

(42) 本州四国第16回基礎に関する専門部会(42.3.15) 出席者: 関係者45名。議事: 省略。

(43) 岩盤力学委員会第2分科会幹事会(42.3.15) 出席者: 関係者4名。議事: ずい道の適正覆工時期に関する研究報告書のとりまとめ。

(44) 軟弱地盤耐震設計研究委員会幹事打合せ(42.3.15) 出席者: 関係者4名。議事: 昭和41年度報告書原稿のとりまとめ。

(45) 第2回論文賞選考委員会主査幹事会(42.3.15) 出席者: 本間委員長, 久保, 嶋, 米谷の各主査, ほか3名。議事: 1) 審査意見の開票整理。2) 第2回委員会運営方法について。

(46) 河北潟干拓河口工事研究委員会(42.3.16) 出席者: 福田委員長, ほか13名。議事: 1) 放水路河口工事の実施につ

いて。2) 報告書の作成について。3) 昭和42年度委員会の方針について。

(47) 岩盤力学委員会第1分科会(第6回)(42.3.17) 出席者: 関係者11名。議事: 1) 運営委員会報告。2) 岩の力学国内シンポジウムについて。3) 講演「黒四ダムの基礎岩盤の安定計算について」; 関西電力 近藤委員。

(48) 岩盤力学委員会幹事会(42.3.17) 出席者: 関係者4名。議事: 1) 昭和42年度運営方針について。2) 岩の力学国内シンポジウムについて。

(49) 第106回耐震工学委員会(42.3.17) 出席者: 那須委員長, 岡本副委員長, ほか8名。議事: 1) 前回議事録の確認。2) 本州四国耐震設計小委員会について。3) 軟弱地盤耐震設計小委員会について。4) 第9回地震工学研究発表会について。5) IAEEについて。6) 原子炉施設の耐震設計と試験方法について。

(50) 本州四国連絡橋技術調査委員会幹事打合せ(42.3.18) 出席者: 関係者12名。議事: 省略。

(51) 昭和41年度役員候補者選考委員会(42.3.17) 出席者: 関係者24名。議事: 昭和42年度役員候補者推せんについて。

## ◎その他

(1) 第2回岩の力学国内シンポジウム(1967)第1回運営委員会(42.3.14) 出席者: 土木学会, 日本鉱業会, 土質工学会, 材料学会, より関係者14名。議事: 1) 経過報告。2) 委員長, 幹事の選出。3) 第2回シンポジウム開催の件。4) 国際岩盤力学会議の件。5) その他。

## 支 部 だ よ り

### ◎北海道支部

(1) 第6回幹事会(42.2.17, 支部事務局) 出席者: 林幹事長, ほか5名。議事: 研究発表会・講習会・開催準備, 当日の分担について。

(2) 41年度研究発表会論文集刊行(42.2.21)

① 収録論文: 31編  
ページ数: 218ページ  
刊行部数: 1600部

② 一般頒価: 400円(残部20部)

(3) 41年度研究発表会(42.2.22, 市民会館)

発表件数: 31件 発表内容: 土木学会誌第52巻1号に発表のとおり  
聴講: 150名

(4) 41年度講習会テキスト刊行  
(42.3.6)

講習科目：土木学会誌第52巻1号に  
発表とおり テキストページ数：8科  
目・80ページ・300部刊行  
頒価：500円

(5) 41年度講習会(42.3.8, 札幌市  
民会館)

聴講者：120名  
講習科目：8科目(土木学会誌第52巻  
1号会告のとおり)

◎関西支部

(1) 福井地区講演会(42.3.16, 福井  
商工会館)

共催：土木学会関西支部・福井県建設  
技術協会

題目と講師：

1. 土質力学入門(土質とその試験法, 土圧)  
京都大学教授 工博 赤井 浩一
2. 土質力学入門(地盤支持力)  
大阪大学教授 工博 伊藤 富雄
3. 福井地方の地すべりについて  
福井大学教授 理博 塚野 善哉
4. 北陸縦貫自動車道の建設について  
日本道路公団高速道路金沢建設所長  
堀内 弘顕

映 画：

1. 東海道新幹線(総集編)  
16ミリ カラー シネスコ 46分

2. 北国を建設する

16ミリ カラー 30分

参加者：153名

(2) 水理構造物の設計における特性  
曲線の役割についての講演会(42.3.23,  
京都大学土木総合館)

題目と講師：

水理構造物の設計における特性曲線の役割に  
ついて

オランダデルフト国際水工学および衛生工  
学コース講師 Dr. M. Abbott

参加者：26名

(3) 岩盤の調査・計測と設計・施工  
に関する講習会(42.3.23~24, 大阪科学  
技術センター)

共催：日本材料学会 岩石力学部門委員  
会・日本材料学会関西支部

協賛：土木学会関西支部・土質工学会  
関西支部・日本鉱業会近畿支部

題目：10題 参加者：118名

(4) 役員候補者選考委員会委員打合  
会(42.3.1, 好文倶楽部) 出席者：委員3  
名。

(5) 第3回商議員会(42.3.15, 中央  
電気倶楽部)

出席者：商議員12名, 他に委任状提出  
者9名, 評議員5名, 理事・監事2名,  
幹事長・幹事13名。

(6) 第11回幹事会(42.3.15, 中央  
電気倶楽部)

出席者：伊藤幹事長, ほか13名。

(7) 商議員交替について

商議員 青木浩一氏は日本鉄道建設公団  
計画部海峽線課副課長に転出のため, そ  
の後任として 国鉄大阪工務局土木課長福  
田利光氏に商議員委属した。

◎中国四国支部

(1) 第3回見学会(42.3.14~16)

場 所：国道57号線~天草5橋(パー  
ルライン)~山波ハイウエー

参加者：45名

(2) 巡回映画会

日 時：昭和42年2月14日

場 所：宮崎県自治会館

上映数：5編

参加者：70名

日 時：昭和42年2月16日

場 所：熊本県立図書館

上映数：5編

参加者：600名

日 時：昭和42年2月18日

場 所：福岡市明生ホール

上映数：5編

参加者：200名

編 集  
後 記

5月号の特集である骨材問題はほとんどす  
べての土木技術者の共通の問題であり, すべ  
ての読者に興味をもって読んで頂けるものと  
考える。

すなわち, 骨材は土木材料としてすべての土木技術者  
がそのユーザーであるとともに, 河川の砂利, 砂, 海岸  
の砂などは, それぞれの管理者として採取規制の問題を  
もっている。また最近新聞紙上を賑わした砂利組合の出  
荷ストの問題は, 砂利トラに対する道路輸送と交通安全  
施設の問題といえよう。砂利問題が人々の関心と呼ばは  
じめた7, 8年前は砂利の乱掘と河川の河床低下, 河川構  
造物や橋梁の基礎の洗掘という限られた範囲の問題であ  
ったが, この2, 3年は, 道路輸送, 交通事故, 公害,  
さらに物価問題と大きな社会問題としてもマスコミに取  
り上げられるようになってきている。一方碎石, 軽量骨  
材も大量に使用されるようになり, 特に軽量骨材はわが  
国のような地震国では構造物の軽量化という長所をも  
っており, 強度や値段の点における不利をおぎなって, 今  
後大いに発展が期待されている。

このように, 骨材問題は土木界全般における政策的な  
問題, 公害としての社会問題, 個々の専門分野における  
技術的問題などが複雑にからみあっているだけに, 学会  
誌の特集ですべて問題を出しつくし解決の方策を示せる  
ものでなく, 事態は非常に流動的であるといえよう。し  
かし全土木技術者が骨材問題に対する認識を新たにし,  
皆で対策を考えて行く糸口となれば幸いである。

3, 4月号あたりまでは, 投稿原稿を受付けてから掲載  
するまで6~9ヵ月もかかっていたものもあり, ご迷惑  
をおかけしていたが, 最近手持原稿もほとんどはけて  
受付け後2ヵ月くらいで掲載できるようになってきた。  
編集委員会でも原稿審査のスピードアップを心がけてい  
るが, 中には投稿規則に適合しないために掲載できな  
かったり, 掲載が遅れるものが多い。4月号に投稿要項お  
よび規則を発表したように新年度から投稿規則を改正  
し, 特に「主旨」と「結論」をはっきりと書き加えて頂  
くようになったので, 投稿要項および投稿規則をご熟読  
のうえ投稿されるようお願いしたいと考えています。

(岡田哲夫・記)